

園名：社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園
活動日時：令和7年12月15日
午前中
クラス名：こじか組（3歳児クラス）
年間テーマ：設定遊び

＜テーマの設定理由＞

室内で思い切り体を動かして遊び、気持ちを発散させる。手足・体をしっかり使って育つことでイメージも広がり、色々な遊びにつながっていく。2歳から3歳クラスになり、広いホールを走ったり、リズム遊びをしたりと、体を動かして遊んできたが、走るだけではなく、梯子を登ったり、くぐったり、高い所からジャンプする等、色々な体の動きを経験する。身体を使って遊ぶ中で、自分の中で、また友達とのワクワクを引き出していく。

＜活動スケジュール＞

1年を通して設定遊びを継続的に取り組んでいる。
この日は午前中3歳クラスのための空間・時間で道具を使いながら設定遊びを行う。

＜活動のために準備した素材や道具＞

梯子・体技台・平均台・ロールマット・マット
肋木・肋木板・大縄・布団棚・

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

＜ねらい＞

- ・設定を3か所作る。自分で好きなものを選んで楽しみながら体を動かす。
- ・一本橋は落ちないように慎重に渡る。 ・高這いの姿勢で梯子を渡る。
- ・肋木は中をくぐったり、上を登ったり、好きなように渡る。上を通る際、下りで体の向きを変えて降りる。



ロールマット

4つ繋げて、山を作るが、大きさをバラバラに組み合わせることで、凹凸を作る。バランスを取りながら歩くことができるようにする。
→登る時は四つ這いで登る子、足を使って登る子がいた。凹凸の道を立って歩く子もいたが、四つ這いで進む子が多かった。
大きなロールマットからはジャンプする子、滑り落ちる子がいた。
滑る人数が多くなると、「どいて」と声をかけ、気を付けながら滑り落ちたり、ジャンプしたりする姿が見られた。



長時間やっているとおきてきて、走り回ったり、友だちを押ししたりする姿が見られるようになってきたため、巧技台を置き、ジャンプで渡ったり、飛んでいったりすることができるようにすると、再び集中して楽しむ姿が見られた。

肋木

2つを並べて置き、太鼓橋のように設定する。梯子よりも持つ部分が細いため、梯子で行うよりも、拇指対向でしっかりと握る姿が見られた。下りに変わる時に、そのまま進もうとするが、自分で体の向きを変えた方が降りやすいということに気付いた子は、自分で向きを変え、慎重に降りていた。



＜振り返り＞

・ロールマット

凸凹とした道を作ることでバランスを取りながら歩いたり、四つ這いの姿勢で登る等、自分の行きやすい方法を見つけて遊んでいた。普段の生活の中で四つ這いの姿勢で遊ぶことがなかなかできないため、組み合わせ方を工夫しながら、凸凹とした道を作っていく、バランスを取りながら遊んでいけると良い。

・肋木

上に向かって登るだけでなく、斜めに置くことで、違う遊び方ができることが分かった。中をくぐる子もいたが、上を登り、途中で体の向きを変えながら慎重に進む子もいた。梯子で遊んでいる時より、しっかりと拇指対向で握っている子が多かったため、3歳児の設定遊びとして適しているのではないかと感じる。普段の生活の中で後ろ向きで降りること、途中で向きを変えること等、あまり経験できない動きを設定の中で取り入れていけると良い。